

第74回 奈良県河川整備委員会 議事概要

日 時：平成27年10月26日（月） 9:30～12:00

場 所：奈良県中小企業会館 4F 大会議室

出席者：（委員） 岩本委員、倉橋委員、庄田委員、立川委員、谷委員、藤次委員、中川委員（委員長）、堀野委員（8名）

（欠席 3名） （五十音順）

（事務局） 県土マネジメント部長、河川課長 ほか6名

議事：1. 進捗点検（大和川水系曾我葛城圏域）について

- ① 治水
- ② 住民連携
- ③ 防災
- ④ 環境

2. 環境モニタリング調査結果について（中間報告）

質疑応答：

1. 進捗点検（大和川水系曾我葛城圏域）について

立川委員 「前回評価時の浸水深図」の「前回評価時」とは何か。

事務局 前回評価時とは、前回の事業再評価時の氾濫シミュレーション結果を示したものである。再評価のときに再度シミュレーションを行う予定である。

立川委員 治水事業によって浸水想定図が変化して、氾濫ボリュームが減少する等を時系列的に示すことで事業の進捗の効果を分かりやすくすること。

事務局 高田川等で一部効果が出ている区間があるので、効果を示せる範囲で示していきたい。

中川委員長 費用対効果の検討において、氾濫被害はどの時点のものをを用いるのか。

事務局 河道の改修が進むにつれて被害の発生状況も変化する中小河川であるので、どこか最大の1カ所を氾濫させて、B/C、経済効果を検討している。

谷委員 尾張川等に設置されている堰には魚道は整備されているのか。

事務局 魚道はつけていない。

谷委員 改修への理解が得られないことについて、鬼怒川での破堤を目の当たりにして同じようなことが圏域内でも発生する可能性があり、それを理由に地権者の協力を得られないのか。大和川において鬼怒川のような雨が発生した場合に鬼怒川と同じようなことが発生するのではないか。

事務局 鬼怒川のような雨が降れば、大和川流域でも河川があふれることが考えられる。

- 中川委員長 葛城川において、私有地が河川改修のネックになっている。長期にわたり交渉しているが、なかなか改修が進まない。土地収用法もあるが、県としてどう考えているのか。
- 事務局 葛城川の左右岸の民地について、引き続き交渉を行う予定である。もし理解が得られないのであれば、土地収用法も視野に入れていかなければならないと考えている。
- 藤次委員 昨今、浸水被害が全国的に報道され、世論の意識が高まっていると思われるが、いつまでも河川改修に伴う交渉に時間を要している。いつ被害が発生するかはわからないので、交渉はできるだけ長引かせないように努めるべきである。
- 堀野委員 1/10 規模の洪水が発生した場合、上流区間ではどのようになっているのか。浸水しているのではないか。計算上、上流区間で浸水被害が発生するため、下流区間では1/10 規模の洪水では浸水していない状態になり、河川事業に理解を得られていないということはないか。シミュレーション結果を見る限りでは、浸水が頻発していて、住民も事業に肯定的となり、例えば反対者を説得するといった活動があってもいいと思うが。
- 事務局 昭和 57 年に大和川と葛下川で堤防が決壊した。それ以降、平成 12 年に樞原市で寺川が一部決壊している。それ以降は外水があふれたり、堤防が決壊した事例はない。内水はたびたび発生している。なお、昭和 57 年以降、30 年間で3回以上浸水している地域を浸水常襲地域と定めており、100カ所近くある。
- 堀野委員 住民が感じている氾濫の程度が氾濫シミュレーションに近ければいいが、大きな乖離があると、事業について賛同を得られにくい。例えば避難等のソフト対策をしようと思っても、真剣に避難訓練に参加しないなど、そういったことに波及するのではないかと個人的に心配であり、現実には検討をして欲しい。乖離のある結果をもって住民に説明すると、恐らく誤解を与えてしまうことがある。
- 事務局 今は決められた方針に基づいてやるところということだが、確かにこの流下能力の割合が小さいことについて確認する。
- 中川委員長 葛城川における堤防嵩上げについて、これを最適な改修とする理由を教えてください。
- 事務局 河床掘削にした場合、下流から河床を全部下げていかなければならないこととなり、改修区間延長が長くなる。現計画では、整備必要区間は余裕高不足の区間のみである。
- 立川委員 流下能力図に点線で示されている流量配分があるが、「準線形1/10流量」と「整備計画流量(1/10)」の差が余裕高のことか。計画値は点線よりも大きい値となっており、計画を過大に見せているように見える。
- 事務局 流量の算定について、全体計画では合理式、総合治水では準線形貯留関数法の2通りがある。2通りの中で、もとの流量を上回っていないことを確認して準線形の結果で算出している。
- 中川委員長 どういったモデルを使ってピーク流量を評価しているのか、どういうモデルを使っているのか、資料を整理すること。
- 岩本委員 湾曲部の外岸側では水位が上がると思うが、護岸の劣化が生じやすいのではないか。

事務局 そのような箇所では護岸を整備している。護岸と水の流れが近寄ると洗掘されやすくなるが、護岸には根入れを設定しており、安全を保っている。

岩本委員 吉野川では危ないところのすぐ上に住居が建っており、お住まいの方にわざわざ移転を促して、その移転について補償をしたような事例を耳にしたことがある。住民が本当に危険性を認識して住まれているのか甚だ疑問である。

中川委員長 鬼怒川の破堤を契機に、超過外力が発生した場合に家屋が倒壊する危険性の恐れがあるような箇所については、国が公表していくということになっている。奈良県でも同じような対応をお願いしたい。

谷委員 リバーウォッチングや清掃活動、防災訓練については実施場所を明記してほしい。

事務局 了解した。

岩本委員 リバーウォッチングの実施回数などの減少傾向については、総合的な学習の時間が従来、年間 105 時間、1 週当たり 3 時間だったものが現在 70 時間、1 週当たり 2 時間と減少しているので、そのような影響に起因していると推察される。また、道徳や英語など他の内容と競合している場合も考えられる。

岩本委員 水質事故について、社名が示されているが問題ないのか。

事務局 水質事故については、原因が特定できた場合は環境政策課から公表しており、問題ない。

2. 環境モニタリング調査結果について（中間報告）

谷委員 アジアカブトエビやアメリカカブトエビは、水田では雑草を食べてくれる、ある面では益虫になっている。1 カ月ほどしか生きられないので、ほかの生物を駆逐する等の影響はない。そのようなことも点検に踏まえないと、誤解を含んでいる。

中川委員長 環境調査をされて、外来種が在来種を駆逐していくような悪名高い外来種も数多く存在している。生物がこの時点で生息していたというようなデータを残していくというのも非常に大事なことである。さらに、生態系に大きな害を及ぼしているような植生、あるいは動物について何らかのメッセージを出すべきである。

事務局 県の中でも今現在、生物多様性の奈良の戦略について議論をしているところである。そちらと情報を共有して、きちんと整理していきたい。

3. その他

倉橋委員 ここで出たような意見を公表し、県民の方々に共有していただくということは、ぜひこれからも前向きにお願いしたい。

以上